

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1 活動のテーマ

< テーマ番号2 >

【4歳児】 みんなで協力する～バルーンと和太鼓の取り組みから探究する協同性～ 担当教諭： 猪爪 歩
 教諭指導体操講師： 三浦淳子 教諭指導音楽講師： 佐藤節子



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

< テーマの設定理由 >

当園の4歳児は、「自分の思いを伝え、ともだちの思いに気づく」を年間目標とし、運動会のバルーンと音楽会の和太鼓は例年4歳児の大事な取り組みとなっています。長い時間をかけ取り組む二つの活動を通して、協力することで一人よりおおきなことができる気づき、ともだちと声をかけあい主体的に活動する楽しさやみんなで実現する喜びを味わえるよう問いかけました。法人として多数の楽器を所有していますが、特に日本固有の和太鼓について長年にわたり力を入れています。

2 活動スケジュール

	日程	活動の内容 「保育者の問いかけ」や”アプローチ”	環境設定 (探究心への促し)	活動中の様子 (子どもの姿・声)	振り返り (担当教諭の気づき、専門講師のアドバイス)
1	7月10日(水)	バルーン：体操の専門講師による教諭への研修	(研修内容) バルーンの持や方やあげ方、声のかけかた(動きをわかりやすい言葉にする)、指の力と腕の力(しっかり引っ張る・あげる・おろす)、空気を入れて形にする技を曲に合わせて実践、集中力の維持(人任せにしない)		どんな動きが音楽に合わせやすいのか、子どもがとりいれやすいのか、アドバイスをもらいながら、体の動かし方、子どもの背に合わせて指導する方法等を実践を通して学びました。
2	7月上旬	バルーン：大きなバルーンをもち上げる 『一人では難しいけど、みんなで力を合わせたらどうなる?』	50人用バルーンの大きさ、重さを感じられるよう、まず子どもたちに自由に使ってもらい 協力して広げたり、持ち上げたりするよう促す みんなでできる技があることへの気づき	バルーンの上に寝てみる「お布団」「海みたい」「みんなも寝られるよ」→バルーンの下に潜ってみる「おうちみたい」「秘密基地」「出口どこ」 最初一人でバルーンを持ち上げようとする「重い」「持ち上げられない」→バルーンの膨らませ方を教えると友だちを呼んで「広げるの手伝って」持っていて見ている子には「せーのでやろう」と誘いあう→しわしわを伸ばそうとバルーンを引っ張る、段々と大きさがみえ「大きいね」「すごい」 普段の保育時間中に、バルーンごっこする 気に入った「おうちの技」を何度も練習したが →上手くできるまで練習	子どもたち同士、バルーンを触ってみて気づいたことを言葉にして共有していました。 協力を促すと、子どもどうして「ここをもってほしい」「あっちの方向に引っばって」等伝え合うことができました。 繰り返し練習する中で、お互いに声を掛け合うようになり、その声が段々大きくなってきました。

	日程	活動の内容 「保育者の問いかけ」や"アプローチ"	環境設定 (探究心への促し)	活動中の様子 (子どもの姿・声)	振り返り (担当教諭の気づき、専門講師のアドバイス)
3	7月中旬	バルーン：こどもたちが楽しめる技をいっしょにやってみる	おせんべい、洗濯、ホットケーキのように技に名前と掛け声をつける	リズムと掛け声の言葉が面白い様子で、他の技も知りたい、やってみたい気持ちがでてくる 「なんだかできそう」友だちと一緒に協力することの楽しさを感じる様子 技が上手くできなかった時に悔しそうな表情	年少時からの音楽リズムの経験で、リズムと言葉の掛け合いに慣れ親しみ、そこから体の動きまで自然とできています。 集団行動が苦手な子どももバルーンの輪には一緒に入ってきます。
		和太鼓：盆踊りのために用意された和太鼓へ興味をもち、遊びの中でたたく『たたいてみる?』	遊びとして和太鼓がたたけるよう保育室内におく ばちの重さに気づく たたき方による音の違いに気づく	「大きい」「ばちが重い」「たたいてみたい」「触ったら、がさがさ(皮)とつるつる(胴)」 たたいてみて太鼓とその音の大きさに驚く→周りの子ども集まって順番にたたく 「ふちがいい音」「かちかち」「手がビリビリする」 面とふちを順にたたいて、音の違いや大きさの違いを楽しむ 誰かがリズムを作って遊んでいると、後から友だちが合わせてきて、何人かで即興演奏 「面白いね」「同じだったね」「次はこうやってみよう」	年少時から憧れや叩いてみたい気持ちがあり、太鼓を目の前に「自分もやってみたい」の声がたくさん聞けました。自由にたたいてる間に音の違いに気づいて、そのことを共有したり、「どこが良い音なのか」たたいて探し始めたりしていました。 子どもたちは、今までの音楽指導の中で音符カードを使いリズム譜が読めるようになっていきます。習ったことのあるリズムカードで叩いてみたり、誰かが即興でつくったリズムを真似してみたり、いつの間にか楽しくなり笑いあっていました。
4	9月	バルーン：技をつなげ音楽に合わせてやってみる 『難しいけどやってみる?』	難しい動きも楽しめるように、動き(拍)に合わせた言葉でやってみる(4拍：せんたくごしごし、8拍：ばんざいしてなかはいる等)→音楽にあわせてみる 動きのことばをはりだす 年少時に見にいっていたように、バルーンを他学年に見てもらい自信につなげる	音楽と言葉のリズムが合うことで、動きが覚えやすくなり、技をつなげてできるようになる 自由に遊んでいる時にも言葉や動きを口ずさむ 「もっと大きくなった」「すごい」 できたことへの達成感を味わう様子 お客さんとして他学年に見てもらうことによる自信→みんなに見てもらいたい	技をつなげて出来た時、みんなとても嬉しそうにいました。難しいと思っていた技も協力すれば”できる”ということに気づき始め、できた時には子どもたちみんな喜んでいました。 気持ちをひとつにするため「みんなで声をかけよう」とアドバイスをうけました。曲に合わせて練習するようになり、声も気持ちもあがり演技に集中しています。
		和太鼓：簡単なリズムをたたいてみる 『色々なリズムをたたいてみよう!どんな言葉にする?』	大きく書いたリズム譜に言葉をつけ、壁にはる。 簡単なリズムからまねて、音がそろそろ楽しさに気づく 締太鼓、宮太鼓、桶太鼓のたたき方が違うことを教え、音の違いがあると気づく	「1かいたたく」等リズムに言葉をつけることにより、覚えやすい様子 子どもたちからも言葉にしたいアイデアがでる	簡単なリズムでもみんなが揃うときれいに聞こえるということがわかったようです。太鼓により音が違うことを楽しんでいます。
5	10月19日(土)	バルーン：運動会で演技を披露する	大勢の人の前で、みんなで協力してバルーンをあげる	「花火(技の名前)が上手にできた」自信をもって楽しんで演技する	会場は園庭よりずっと広い小学校のグラウンドでしたが、大きな声を出して、力いっぱいバルーンを持ち上げ、みんなで協力して演技をするところできました。終了後それぞれ達成感を味わう表情がみられました。
6	10月下旬	和太鼓：面とふちをたたく 休符と組み合わせる リズムをたたき、みんなで音をそろえる	大きく響く面の音と締まった音のふちをたたいて音の違いに気づく 音やたたき方に変化をつけることで曲に強弱をつける みんなで音をそろえると楽しいとしり、自分から友だちに合わせにいく	優しくたたいたり、強くたたいたり、強弱をつけてたたく時の音の大きさの違いがよくわかり嬉しそうな様子 休符、強弱を意識して、みんなで音を合わせることを楽しむ	太鼓の真ん中を「ドン」というイメージでたたくこと、ふちの部分は優しく触るようにたたくと音が綺麗にきこえるというアドバイスがあり、子どもたちは自分で演奏しながら音の違いも感じています。最初は難しかった”みんなで揃える”が上手にできるようになり、その成長を実感してみんなで喜ぶ姿がありました。

	日程	活動の内容 「保育者の問いかけ」や"アプローチ"	環境設定 (探究心への促し)	活動中の様子 (子どもの姿・声)	振り返り (担当教諭の気づき、専門講師のアドバイス)
7	11月	和太鼓：動きを揃えてたたいてみる	動きや音の強弱をそろえて練習する 手の高さや、たたく位置を確認する	音が揃った時に嬉しそうな様子 大きな音をたたいた後の休符が揃うことに心地良さを感じている	手の高さを意識し音の強弱をそろえることで、より一層一体感が高まったように感じました。難しい演奏法ですが、子どもたちが集中して練習する姿が見られました。
8	12月19日(土)	和太鼓：音楽会で披露する 「万葉歌」「八木節」	大勢の人の前で、みんなで気持ちを合わせて演奏する	自信をもって演奏して、ステージの上でみんな で演奏することを楽しむ	大きな会場のたくさんのお客さんの前で緊張を感じながらも、みんなで気持ちをひとつにして演奏を楽しむことができました。